

# 革織物をはじめ多様な種類の異なる素材を織り上げることによる立体感と色彩感あふれる新しい織物及び製品の開発

平成25年度 採択事業

竹中

代表 竹中 章さん  
たけなか あきら



竹中 章さん

## 西陣織の職人から

京都西陣織が育んできた伝統的な織りの技術から、革やビーズなど繊維とは異なる素材を織り上げる技術を開発した「竹中」。その革新的な技術は今までに見たことのない美しい織物を作り出し、今、世界のデザイナーの目にとまっているそうです。

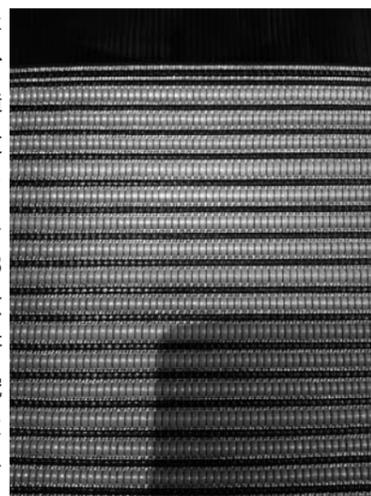
代表の竹中章さんは、元は、父が西陣で営んでいた竹中紋工匠で、帯の図案や意匠図（図案を織り手に伝えるための設計図）を作る職人でした。その後、バブルの崩壊を経験し、西陣織業界も大打撃を受けた影響から、平成15（2003）年、親会社に出資を受けて株式会社竹中テキスタイルを設立します。そこでは、神社仏閣の法衣や装束などの金襴織物を扱い、織機的设计、織物の図案や意匠図作り、織り手や材料の手配など、織物を作るための全ての工程を担っていたそうです。従来の西陣織はすべて手作業で分業でしたが、ジャガードなど海外からの織機の導入で効率化される面も出てきました。竹中さんは徐々に複雑な織機の扱いを学んでいきますが、効率化されたのは織りの作業だけで、結局は手作業でなければ出来ない部分が必ず残りました。例えば、機械が自動で意匠図の通りに織れるようにするまでの様々なセッティングをしたり、織りの途中で糸を継ぎ足したり、糸のテンション（引っ張り具合）の微妙な調節をしたり。結局、人間が苦手とする単純作業の部分の効率化はできません。竹中さんは、「織機の扱いも含め、織物の全工程を担うことはとても大変だけど楽しい経験だった」と言います。しかし、「やりたいことだけでなく、むしろその他のことに時間を割かれ、徐々にやりたいことができなくなっていった」と、竹中さん。平成23（2011）年に株式会社竹中テキスタイルを退任します。

## 革新的な「革織物」

しかし、これまでの試行錯誤や試練を含めた経験は、現在の基礎を作る重要な時期でもありました。竹中さんは、金襴織物の傍ら株式会社竹中テキスタイルで糸の代わりに革を織り込む「革織物」を生み出していました。基本的な技術は西陣織そのままに、出来上がりは従来の織物とは全く違う斬新な織物です。革織物については、レクサスLF-A（トヨタ自動車）のシート生地に採用され世界のモーターショーで展示されるなど、織生地としてすでに高いニーズを確認していた竹中さん。シャネルからは西陣織の平均的な生産能力の約100倍を求められる、規模の大きいお話も頂いたそうです。しかし、

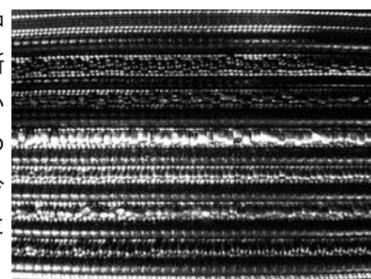
## 伝統製品の活用

質を確保するため、まずは自身自身で商品製造を進め、身の丈に合った製造ラインを大切にしようとして、平成23（2011）年に京都市産業技術研究所の企業研究能力開発事業に参画します。そ



革素材の織物

こでは、半自動手織機を使った新しい織物の開発、またそれに必要な織機の改良や装置の開発を進めました。中には、従来の技術から大きく発想を転換したものもあれば、手作業で使っていた道具を改良して安価に工夫したものもあります。その結果、革だけでなく、太さ、厚さ、幅、材質などが多様な異なる素材を組み合わせることで織り上げる技術を確立します。この技術を使うと、革、金糸、絹糸、ビーズ、竹などを自由に組み合わせることで1つの作品に織り込むことができます。異なる素材を織り上げることで、質感、立体感、色彩感の幅が大きく広がり、デザインも無限に広がります。竹中さんはこの革新的な技術を用いて商品開発につなげようと、今回の事業採択に至りました。



ビーズ素材の織物

## 伝統産業の評価を逆輸入

まず商品化を目指したアパレル業界では、女性が美しいと思うものづくりが求められます。扱う革やビーズなどの材料も本物で上質のものをそろえ、配色も欧米の風土色に最も適するように心がけました。サンプルを制作した結果、世界で高く評価されているデザイナーの方をハンズオン制度で紹介していただき、独占契約のお申し出をいただくなど、確実にその良さが伝わっています。また、京都高度技術研究所のコーディネーター、京都市産業技術研究所、知恵産業融合センターとも連携し、身の丈に合った製造ラインで作り出す、質の高い逸品を強みとして事業展開していく方策を考えています。

西陣織だけでなく伝統産業界は今後も厳しい時代が続

くことは否めないでしょう。それでも、日本の誇るべき技術を後世に残すため、後継者不足を解消するためにも、今、世界からその技術が注目されることも大切です。海外で日本の文化や技術に高い評価を得ることが出来れば、その評価を日本に逆輸入できるのではないかと竹中さん。将来的にニーズが広がれば、チームを作って生産量の拡大や技術継承につなげていきたいと考えているそうです。

日本では、古来、織物には柄や色などを通して様々な祈りや願いが込められていたと言います。西陣織の職人たちはいつも、その織物を待っている人の気持ちを思い出して仕事をやれ、と言われてやってきた、だから緻密さの伴う気の長い手作業を脈々と伝えて来られたのだと言います。「いつかは発明した技術を使った帯を作りたい。最後は帯に回帰してみたいんです」と竹中さん。新しいことにまい進しながら、もう一度織物に込められた祈りを日本人の心に取戻したい、という思いがひしひしと伝わる夢を語ってくださいました。



ビーズを織り込んだクラッチバッグ

## 事業概要

### 竹中

代表：竹中 章  
業種：西陣織  
創業：平成24（2012）年1月  
住所：〒602-8403 京都市上京区芦山寺通大宮西入  
中社町 354  
TEL：075-441-6509